

NPO/NGO アジア キッズ ケアだより

【住所】〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町北川原 1054-3 【発行者】代表:喜安美紀 【発行日】2013. 8. 24(通巻第 10 号)
【HP】<http://www12.plala.or.jp/asian-kids-care/> 【E-mail】kids@zpost.plala.or.jp 【団体設立】2004. 2. 11
【TEL】090-5912-4515 【FAX】089-985-0389 【郵便振替】口座番号: 01600-5-13009 口座名義: アジア キッズ ケア
【ゆうちょ銀行】店番:169、店名:一六九店、口座番号(当座):0013009、受取人名:アジアキッズケア

残暑厳しい季節となりましたが、皆様には御健勝にてご活躍のことと拝察いたします。

NPO法人アジアキッズケアは、もう少しで活動 10 周年を迎えますが、支援者の皆様の御支援によりまして、現在までアジアやアフリカの 11 개국 17 地域の子どもたちをサポートしてきました。今後も信頼できる現地協力者や留学生とともに、支援のバトンリレーをしっかりと繋いで、ハンド to ハンドの支援活動を行ってまいります。さらに 9 月に、留学生バーナードさんと連携して、初めてウガンダの子どもたちに支援物資を送付する予定です。

2013. 8. 24

アジア キッズ ケア代表 喜安 美紀

この 1 年間の支援物資 (衣類、文具、楽器、日用品等) の発送

- ・2012. 8 ガーナ(6)
- ・2012. 9 マリ(6)
- ・2012. 10 フィリピン(6)
- ・2012. 11 ケニア、韓国(5)
- ・2012. 12 マラウイ(6)
- ・2013. 1 ガーナ(6)
- ・2013. 2 インド、ザンビア(7)
- ・2013. 3 マリ(7)
- ・2013. 4 フィリピン(7)
- ・2013. 5 ケニア、インド(6)
- ・2013. 6 マラウイ(6)
- ・2013. 7 ガーナ、韓国(6)

※支援物資の送付実績 6 2 7 箱 送料経費総額 3,740,395 円 (2013. 7 現在)

毎月行う荷造りボランティア活動 ※支援物資の送付実績 627 箱

荷造りボランティア活動 (第 3 又は第 4 日曜日: 14:00~事務所) は、留学生、小中高・大学生・社会人などの方々が参加しています。留学生から母国のことを聞き、現地の子どもたちの写真や手紙等を見たり、楽しい会話をしながら荷造りをして発送しています。

延べ人数年間 300 名以上が活動に参加し、毎回約 5 名程度の新しい方や 20 名を超える参加者があります。

ところで、支援物資が届くには、バトンリレーのような内外の支援者による連携と協同作業が必要になります。当団体の現地協力者は、留学生がコーディネートしていますが、留学生自身の家族になることが多いのです。

<支援物資が現地に届くまで>

- ① 全国の支援者から支援物資を送料寄付と一緒に当団体事務所に届けてもらいます。
- ② 支援物資をボランティアの方々と、送付先のニーズに応じて、毎月荷造りします。
- ③ 支援物資を現地協力者宛に毎月発送します。
- ④ 現地協力者より、「ハンド to ハンド」で支援の必要な子どもたちに手渡します。
- ⑤ 活動報告や写真等が現地協力者から届き、その内容を団体の HP 等で紹介します。

<支援物資のご提供のお願い> 子どもたちに送る支援物資として、夏物衣類(子ども~大人用: Tシャツ・ジーンズ・体操服等)、文房具(ノート類、鉛筆・ボールペン・シャープペン、消しゴム等)、楽器(ピアノ等)、通学用バッグ、サッカーボール等がありましたらご提供をお願いします。

韓国・羅州市 (ナジュ) の子どもたちへの支援物資の送付



韓国では、日本に 7 年間留学して農業博士号を取得し農業技術指導を行うユン・サンイク氏(一番左写真)と連携し、家庭崩壊した子どもたちを支援しています。また、日本と韓国の架け橋となる人材を育成するために、ユンさんは、日本の言葉・音楽・文化を子どもたちに教えています。こうした草の根の国際交流を進めています。

アフリカ・マリの子どもたちへの支援物資の送付

現在まで、マリに対しては、計10回、支援物資を合計60箱発送しています。

マリの現地協力者は、首都バマコ近郊のカティにて、留学生コナリーさんの父親（獣医）と母親（元教師）が中心になり、村長さんや村の長老たちが協力してくれています。

これは、前回のマリに送る荷物を作ったときの写真です。約20人のボランティアが集まり、最初に、マリの留学生コナリーさん（写真一番左）から、マリの現状を教えてくださいました。



昨年度、マリはイスラム過激派が北部に侵入して混乱状態に陥り、住民や子どもたちは周辺地域に避難するなど、治安がとて悪化しました。現在もテロの恐怖とともに、以前の平和な状況に回復できていません。

私たちは、留学生や現地協力者と連携して、被害が深刻な北部ガオの子どもたちに支援物資を届けることにしました。マリの平和と子どもたちが安心して生活できることを願いながら、心を込めて箱詰めしました。最後に、コナリーさんが「日本の皆さんの善意を心から感謝します。この荷物は、最も支援が必要な地域の子どもたちに、私の家族や信頼する友人を通して届けられます。困っている人々の大きな助けとなるでしょう。」と語りました。

また、留学生と一緒に松山市立さくら小学校を訪問し、当団体の活動紹介や留学生との交流を行い、子どもたちが一生懸命に収集した支援物資の贈呈があったので、これらも一緒に梱包しました。

日本とアフリカ・マリは、距離は遠く離れていますが、全員がとて近い友人のように感じました。

ボランティアに初めて参加した方へのアンケート（H24.7～H25.6までの1年間：59名）

(1) 参加した方の年齢層等

- ・中・高校生 18名(31%)
- ・大学生 19名(32%)
- ・社会人・若年層（～40歳） . . . 16名(27%)
- ・社会人・壮年層（40歳～） . . . 5名(8%)
- ・社会人・定年後 1名(2%)

(2) ボランティア活動に参加しようと思った理由

- ・国際交流・ボランティアに興味があった . . . 29名(49%)
- ・恵まれない子どもの役に立ちたかった . . . 12名(20%)
- ・先生・友人・親に誘われたので参加した . . . 8名(14%)
- ・アジアキッズケアの支援活動に共感した . . . 6名(10%)
- ・その他（会社や学校の企画） 4名(7%)

(3) 参加した方の声（全員からメッセージをいただいておりますが、その一部を紹介します）

- 皆さんと一緒にワイワイと協力しながら、子ども達のために動くことができたことに喜びを感じました。ぜひまた一緒に活動をして、一人でも多くの笑顔に出会えたらいいなあと思いました。（中学生）
- 誰かの役に立っているという充足感、参加者同士の触れ合いなどがあり、とて良かった。（高校生）
- 現地と直接つながっているのて、子どもたちの反応が楽しみです。また、参加したいです。（高校生）
- 留学生からのお話で、今世界がどんな状態かを知ることができました。荷造りの作業の中で、荷物を受け取った方々の笑顔が浮かび、こちら心も温かくなりました。（高校生）
- 支援活動に係るいろいろな人の責任と信頼と協力で成り立っていることを学びました。（高校生）
- 国際交流をすることで、他国の理解を深めると同時に、物資を送ることで自分でも貢献できているという実感を持つことができ嬉しかったです。物の大切さを改めて実感しました。（大学生）
- 発展途上国の方や孤児へのサポートによって、彼らに希望を与えていることに感動した。（大学生）
- 何の見返りもなく他人のために一生懸命になれる人たちが、こんなにもたくさんいるということが分かって、とて素晴らしいことだと感じた。もっと積極的に動いて皆さんの役に立ちたい。（大学生）
- 自ら動ける場所が欲しくて参加しましたが、楽しく活動できました。物資を送るという支援の形がどういものか興味があったので、今回それが理解できてよかったです。（社会人）
- 夫婦で参加しましたが、普段は聞けないような話を聞けて、とて楽しい時間を過ごせました。継続的に参加したいです。身近な問題と感じて、私たちの心が届けばいいなあと思いました。（社会人）